

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372400939		
法人名	有限会社 ホリ		
事業所名	グループホームたんぼぼ		
所在地	熊本県玉名郡南関町四ツ原1338		
自己評価作成日	令和元年9月	評価結果市町村受理日	令和元年12月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41-5		
訪問調査日	令和1年10月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな田園風景を眺望できる小高い丘の上であって、すぐ近くには、毎年お花見の招待をしていただける大きな工場もあり、民家も点在しています。また近隣にはいろいろなお花の名所に恵まれており、機会あるごとに出かけて季節を味わっていただいております。ホーム内にも常に野の花、山の花に気を配り、四季を感じていただいております。米作農家と直接契約し、砂地で収穫された美味しいお米を購入し、卵は飼育農家から直接新鮮なもの購入したり、ホーム内の畑を入居者様と共に作り、季節の野菜などを収穫し、おいしさを追求した料理を作っています。入居者様一人ひとりがその人らしく安心して生活ができるように、家族、地域、医療との連携を図り、スタッフ一人ひとりが入居者様に寄り添い支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

おいしい食事を提供するために開設当初から米・卵・調味料など品質にこだわって取り寄せている。ホーム菜園で収穫した安心安全な旬の野菜を使用し、体にも心にも優しく豊かな食となっている。利用者は調理の下準備や下膳など自分に来る家事の手伝いや菜園の手入れ・収穫の手伝いなど元気なころの経験を生かす機会があり、役割を持つことで張りのある生活を送っている。管理者は職員の意見・提案を随時採用している。全職員が現場で実践と改善を繰り返しながら最善のケアとは何かを検討し続けている。管理者が主体性を重んじ、信頼を寄せることで職員は仕事に対するやりがいや楽しみを持つことができる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様本位で、地域の中で安全に楽しく生活できますように、全スタッフの意識統一と向上の為に、毎朝の朝礼と月1回の全体ミーティングの時に唱和している。	理念の文言を玄関やリビングに掲示して、毎朝、唱和することで理念の共有を図っている。年に1回、全体ミーティングで理念をテーマに研修会を実施している。利用者の課題解決に向けて意見交換をする際に、理念の確認をしあい、理解を深めている。また、管理者は日頃から職員に理念について説明して浸透を図り、理念の実践を促している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	グランドゴルフ「たんぽぽ杯」を毎年開催し、多くの住民に楽しんで頂いている。ボランティアの受け入れも積極的に受け入れて、年間行事の中にも交流が図れるように行っています。隣接する工場との相互交流や買い物や外出など地域の一員としてして交流を図っている。	地域に出かけての交流は全員参加は難しく、ホーム内での交流がほとんどである。ボランティアによる踊り・人形劇・大正琴などの披露の後、地域住民と一緒にお茶会を楽しみながら交流している。毎年、隣接する会社の花見に招待を受け、共に楽しむことが恒例となっている。グラウンドゴルフ「たんぽぽ杯」を毎年開催し、70名程の地域住民が参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や支援などを訴えながら、事業所の地域貢献の一つとしてグランドゴルフ「たんぽぽ杯」を毎年開催しているが、地域の人に向けて活かすというのはなかなか難しい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的(2か月に1回)に会議を開催し、ホームの2か月間のサービス実施の取り組み状況を報告し、家族や知見者や行政からの意見をもとに話し合い、その後のサービスに活かすようにしている。	運営推進会議は、推進員、民生委員、役場、社協、グループホームなごみの園・菊水、家族代表の参加を得て開催。気軽に意見交換ができるように、テーマは決めていない。会話の中から気になったことなどを議題にし、活発な意見交換を行っている。同業のグループホームの行事や外出に関する情報提供を受け、参考にしている。	運営推進会議で防災のことが議題になっているが、避難訓練と運営推進会議を同日に実施し、委員に訓練に参加してもらい意見交換するのもよいと思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2か月に1度の運営推進会議には町役場の担当の方に毎回出席いただき事業所の実情や取り組みを伝える等協力関係を築くようにしている。	役場の担当者が代わっても丁寧に引継がれており、運営推進会議に毎回参加しているためホームに対する理解が得られている。役場に行った際は担当課にも出向くようにしており、現在困っていることについても気軽に相談できる関係が築かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の介護保険法指定基準については、随時ミーティングなどを行い説明して理解をしてもらっている。	職員は身体拘束や言葉による拘束についても具体的に理解している。不適切な言葉使いについてはその場で注意している。玄関は職員体制などによりやむを得ない場合のみ施錠している。帰宅願望のある利用者にはその理由を聞き、会話を続け、本人が納得される対応を重ね拘束をしないケアに繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者の虐待防止関連法については、全体ミーティングや勉強会、または回覧にて知識を高め全スタッフの意識を引き上げお互いが注意し合える関係を作っていくように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際自分たちの周りに対象となる方々がおらず、実感性が乏しく、勉強としては取り上げたり通達として流しても理解はできない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に家族に重要事項説明書に沿って説明を行い、「保険分」と「自費」の部分をわかりやすく1か月分にして説明をし、ホーム内の見学を必ず行い納得して締結を図っている。解約も相手の問題にあったやり方で行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回の利用料の支払いに足を運んで頂く事を原則としており、来所時を通してお客様または当方よりお願い相談を話している。	年1回の家族会と毎月の利用料支払い等での面会時を、家族からの意見要望を聞き取る機会としている。面会時に利用者の状況報告・利用者の日常を紹介したタンポポだよりの送付・利用者の現状報告の手紙などで、家族の安心につなげている。「季節に合った洋服を着ていない」という家族の意見に対して全職員で話し合い、面会時のコミュニケーションの大切さを再確認し、信頼関係の構築にさらに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングや個人面接を利用して、スタッフの意見を出しやすい場作りに努めている。その結果、意見や提案が行われ良いと思われる個々のケアの方法や運営方法が取り入れられている。	管理者は職員の主体性を重んじている。運営方針やケア等について提案された際はまず実行し、不具合がある場合は再度全職員で検討しており、職員の意欲を高めている。年1回個人面接を行うと共に、職員の表情など気になる際は随時、個別に面談し安心して仕事ができるように配慮している。研修会は職員の意見に基づいて、外部講師を招いて開催するなど、専門知識や技術の向上を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績などを考慮して、やりがいある職場、向上心を持ってやるような職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時に当ホームで経験のあるスタッフが指導したり、他の施設への研修、県の研修参加を含め、ミーティングの中で担当を決め発表の場を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所の推進会議、玉名郡市GHの連絡協議会への参加を通して周りの見聞を広め、交流することで質を高めることを行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に対面にてゆっくりと会話を行うことで、サービスに不安を抱かせなく本人の不安を理解する対応を心かけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安をゆっくりと話を聞ける環境に努め安心して家族の気持ちを話していただくことに心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一番困っていること、一番心配としている件を対応の中より探り、いろんなサービスの説明を行ってみることで、相談者のあったものを自ら選べるように図っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に体操したり、歌ったり、リビングで過ごしたり、食事は同じものを一緒に摂り、入居者様によっては食事の準備や後片付けや洗濯物をたたんだり、畑仕事をしたり、散歩をしたり本人と共に一日を過ごしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	3か月に1回の状況報告書と2か月に1回の「たんぽぽ便り」を郵送することで家族の知らない一面を知っていただき、また訪問時の本人様との面会が良い形でできる様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会は時折あってはいるが限られており、本人からの要望があってもなかなか行くことも困難であり、悩むところです。	友人知人の面会があった際は利用者が面会を楽しみにしていることを伝え、再度訪問しやすいよう声掛けをしている。家族のきずなを深める観点から、お墓参りや買い物などの外出は家族の協力を得て実施しており、馴染みの人や場との関係継続の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食卓の席や、リビングで過ごす場所、入浴の順番など、入居者様同士の関係を把握し関わり合いがうまくいき孤立させないように配慮し支援している。支障が生じた場合は随時変更している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームのいろんな事情があつて移る必要のある方に、次の施設への不安を少しでもなくすため入所後の訪問や関係者への情報提供と家族・本人へのフォローができることを伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その場になると本人の思いよりスタッフの考えで動いてしまい、一部の人にストレスとして出ることもあり、朝礼・連絡ノート・全体ミーティング・その場の注意で極力本人本位の重視の指導に努めている。	職員は利用者との会話や表情から思いを把握し、情報を共有し支援している。利用者が家族にも言えないことを職員が代弁し解決することで利用者が安心できるよう努めている。利用者に寄り添う支援を心掛け、「安心した生活ができるように援助します」という理念の実践につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしは、本人に寄り添い話を聞く中で把握。また家族からの情報などで、生活環境、サービスの利用経過などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌、連絡帳を勤務に入る前に必ず読んでおくことを指導して、朝礼時または勤務交代時などは必ず申し送りを行い、その日の本人に合った対応をするようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的ミーティングの場や現場スタッフに記入を依頼したり、家族訪問時に希望などを聞き、また主治医との相談も入れたり、現状のニーズに近い介護計画とモニタリングができています。	職員は利用者の観察や記録、他職員の意見などから詳細な情報を収集し、アセスメントとモニタリングを行っている。家族との面会時で担当者が得た情報も参考にし、全体ミーティングで意見や気づきを話し合い、利用者・家族の要望・思いを反映した介護計画作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌・連絡ノート・まるごととらえたケア記録に記録を行い、課題に対してうまくいった方法などをスタッフ間で情報を共有して、今後の計画に役立てるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況の変化やニーズに対して医療機関との連携や外出による気分転換など、柔軟な支援やサービスを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	生活の中に生きがいや張り合いを持っていたためにボランティアの訪問や行事計画の実践の中で、今以上に地域資源の上手な利用を行うことでより心身が健康になれるように努力していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みの病院受診付き添い又は協力医の定期的な往診や受診により家族と相談を交え、安心した医療を受けていただいている。	かかりつけ医は利用者・家族の希望を大切にしており、現在は全利用者が協力医をかかりつけ医としている。利用者個々の病状により2週間または4週間ごとの訪問診療で対応。休日や夜間はかかりつけ医が24時間対応し利用者・家族の安心につなげている。緊急時対応のマニュアルを事務室の電話付近に掲示している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在看護師の配置はありません。協力医療機関との24時間体制の対応を取り交わしは行っており、医療機関からの定期的な往診を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報の提供と、病院への同行をすることによって本人や家族の安心に努めており、入院時の面会や関係者への連絡を行っている。また地域医療連携室との交流の場での情報交換も訪問して入手に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の場合、人員体制や高レベルの支援方法も必要で現時点では困難であると思われれます。そのため、連携している医療機関に搬送し、対応してもらうようにしている。本人・家族と出来るだけ早い段階で話し合い、事業所として出来ることを行っていく。	看取りは行わない方針であることを入所時に利用者・家族に説明し了承を得ている。実際にはホームで医療支援を要しない極限の状態まで看ている。万が一の際の職員の精神的な負担軽減のために看取り研修の実施についてかかりつけ医に相談する予定である。	看取りの研修を検討しており、今後の取り組みを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体ミーティング、研修、マニュアル、情報として流しており、スタッフ個々の能力の違いによる対応に差がないように繰り返し訓練していく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署と防災会社の協力を得て防災避難訓練を行っている。定期的にスプリンクラーの点検も行っている。	夜間を想定した避難訓練を実施。自然災害では土砂崩れを特に心配している。崩れる側の反対の棟への避難を想定しているが、それが対策として十分でない場合のために協力医療機関と知り合いのグループホームに避難場所の確保を依頼している。隣接する会社とは災害時の協力を依頼しており、日常の交流を大切にしている。備蓄は1週間分を保持し、年に1回利用者・職員で試食をして入れ替えを行い適切に管理している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に言葉の使い方、対応には力を入れています。スタッフトイレにも入居者様の人格及び言葉使いについて張り出し理解を深めています。重要書類は事務所にて保管・管理し、プライバシーの保護に努めています。	職員は利用者一人ひとりの生活歴や性格を十分把握してその情報を共有し、個々の利用者に適した言葉使いや対応方法で利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。言葉使いは利用者が理解しやすいよう方言を使う場合もあるなど温かみのある言葉使いに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉のかけ方や毎日の関わりの中で、信頼関係ができてきた時に入居者様が自分の気持ちを訴える事ができると思います。気持ちを受け入れやすい環境作りに力を入れています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ついスタッフのペースで行って入居者様との口論もあっていますが、その都度またはミーティングの中で反省する場面もあり、介護者としての誠意とプライドで落ち着いて業務に臨むようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1回、訪問散髪に来ていただいております。洋服も自分で選べる方なは自分で選んでいただいております、そうでない方は着方が偏らないように配慮しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの畑で収穫した野菜を利用したり、できる方とは一緒に準備や後片付けをしスタッフも入居者様と同じ食事を一緒に食べて味を批評したり、食事の準備・後片づけも一緒にできている。	おいしいものを提供しようとの思いから、お米・卵・調味料などをこだわりを持って取り寄せている。訪問日には、みんなで収穫した里芋を使ったりショウガやゴマの風味を生かした家庭料理が提供され、職員と利用者が楽しく会話する食事風景があった。利用者の意見をもとに外出に出かけたり、季節の行事食、時には趣を変えて庭で食事するなど多様な食事を楽しむ支援がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の状態と状況をしっかり把握して本人に必要な食事提供の仕方、水分の進め方・食事摂取のやり方もおいしく確実に安全に食していただけるように支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自ら歯磨きが可能な入居者様には、自身で行っていただいている。ご自身でできない場合はうがいなどを行い口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄のサインを見逃さずに昼夜問わず、トイレでの排泄ができる様に支援していますが、一人ひとりの状況を判断できなくて失敗もあってます。少しでも失敗やパットの使用を減らせるように努めています。	昼・夜ともにトイレでの排泄が基本である。利用者一人ひとりに適した排泄用品を選び、介助や声掛け誘導、見守りなど、利用者にあった支援方法で排泄の自立支援に努めている。当日の排泄状況を引き継いだ上で誘導のタイミングを調節し、失敗を減らすことに努めるなど、家族の経済的負担軽減を意識した対応が見られた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬や浣腸に頼らない自然な排便ができる様に取り組んでいる。朝から運動や繊維質の多い食事及び必要な水分量確保などにより、予防に取り組んでいる。高齢になると必要時に薬の必要があるため、無理のない排便や下痢がないように対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一日おきの入浴だが楽しみにしている。拒否が強い場合はシャワー浴、足浴のみにしていたりしている。体調により入浴できなかった場合は翌日に入浴を行っている。	入浴は一日おきが基本であるが希望者は毎日の入浴も可能である。家庭での生活と変わらないようにという観点から家庭浴槽である。手すりを最小限にしているため、利用者には残存機能を生かせる機会がある。利用者は身体機能の状況に応じて浴槽に入ったり、シャワー浴や足浴を合わせるなど安心安全な入浴となっている。「気持ちよかった～」の声に利用者の満足感がうかがえる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠については、日頃より昼夜逆転のないように、日中は運動などを取り入れたりレクレーションなどにより、覚醒を保ちながら活動されるように支援している。状況に応じては居家で休んでいただくようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用の確認はスタッフにより責任を持って行っている。薬の説明書にて名前、作用及び副作用などの注意事項を確認するようにしているが、全員把握はできていないため、再度理解に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様によっては畑仕事や食事の買い出し、準備、後片付け、ホーム周囲の散歩などをしていただいている。ゲーム、作品作り、誕生日会、月の行事及び季節の行事を通して、入居者様に楽しんでいただき気分転換などを支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホームの周囲の散歩などいつでも行かれていたが、天気次第では入居者様全員に声掛けして散歩したり、食事したりしている。ご家族様との食事でも外出も行われている。	菜の花やコスモスなどの季節ごとの花見や買い物ツアーなど年間を通じて多様な外出支援がある。ホームの家庭菜園では、野菜の手入れや収穫の手伝いをするほか、作業ができない利用者も見学や職員に野菜作りのアドバイスをするなど活躍している。菜園周囲のベンチで利用者はいつでも外気に触れながらくつろげる。家族が同行して買い物や外食に出かけるなど個別の対応も見られた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭的なトラブル防止の意味もあり、個人的にはお金の所持されていません。但し必要な買い物は立て替え払いによりその時スタッフ同伴にて買い物を行ったり、買い物ツアーの計画の中で必要な物を購入されるように支援しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により電話をしたり、ご家族様にも電話の取次ぎができることを伝えていません。郵便物も制限はしておりません。しかし、できるだけ面会していただければと思っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い玄関ホールにはスロープ、広い廊下には手すりやエアコン、リビングにはゆったりとくつろげるソファや大型テレビ、エアコン、居室やどの空間も大きな窓があり、四季の景色、鳥や虫の音が楽しめます。浴室やトイレも清潔保持に努めています。	玄関にはハロウインの飾り物や秋の花を活性、リビングの壁には秋をテーマにした貼り絵を掲示するなど、季節が感じられた。リビングは室温や湿度にも気を配り快適な環境を整えている。今日の日付や曜日は大きな文字で視認性を高めている。利用者は好きな場所で和気あいあいと笑顔で談笑しており、落ち着きのある安心な生活がうかがえた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれにゆっくりできるスペースと自由に自分の思い場所に行くこともでき、入居者様同士ソファで楽しみ、食事テーブルを囲んで雑談や作業で過ごすよう工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は一人ひとり自由にお使いいただき、馴染みの物や好みの物を持ち込まれたりして、安全に過ごしやすいように使っています。	部屋の名前はさくら・あさがお・すみれなど親しみやすい花の名前が付けられている。花の絵の下に利用者の名前が書かれ認識しやすい。ベッドとタンスはホームで準備し、そのほか鏡台などなじみのものを利用者が持ち込んでいる。利用者・家族の希望により、以前の在宅時同様にベッドを使用しない部屋も見られた。折り鶴や写真が様々に飾ってある部屋やシンプルな部屋などその人らしい部屋作りとなっていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーで手すりやスロープもあり入居者様の安全を考えた造りである。散歩やホーム敷地内の畑やベンチに出られる時もスタッフが見守りしやすい造りとなっています。		